

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

米連邦準備制度理事会(FRB)は、11月2-3日の米連邦公開市場委員会(FOMC)において、フェデラルファンド金利(FF金利)の誘導目標を0～0.25%に据え置きました。また、量的緩和の縮小(テーパリング)を11月から始めることを決定しました。

声明文では、物価・景気認識については、「パンデミックと経済再開に関連した需給の不均衡は、一部セクターにおける大幅な物価上昇に繋がった」として、物価認識を引き上げました。そのうえで、先行きについては「ワクチン接種の進展と供給制約の緩和は、経済活動と雇用の継続的な拡大及びインフレ率の低下を支える要因になると見込まれる」とし、足もとの物価上昇が一時的であるとの姿勢を維持しました。テーパリングに関しては、「経済に顕著な改善が見られたことに照らして、月次の資産購入ペースについて米国債を100億ドル、MBSを50億ドル、それぞれ減額する」ことを決定しました。仮にこのペースで減額が進むと2022年半ばにはテーパリングが完了することになりますが、声明文では「同様のペースでの資産購入減額を見込むが、経済見通しの変化とともにペースの調整を行う準備がある」として、今後の調整余地を残しました。

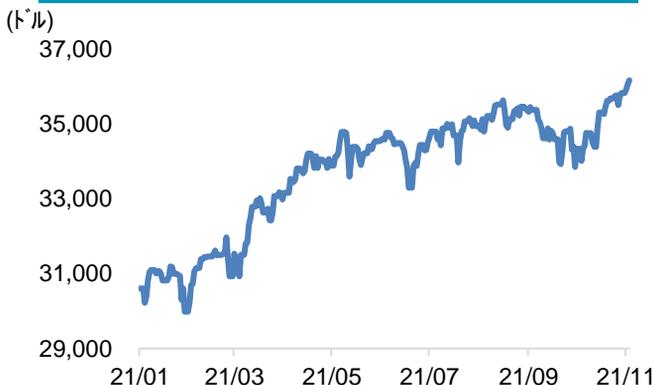
パウエルFRB議長はFOMC後の記者会見で、今回開始を決定したテーパリングは金利政策と直接関連しておらず、利上げに向けてはより厳しい条件を満たす必要があるとして、市場の拙速な利上げ期待の高まりを牽制しました。また、物価については「供給制約は予想よりも大幅かつ長期化している」とし、物価上昇率の加速が想定以上であったことを認めつつも、それは供給制約に依存するところが大きく、2022年半ばに低下していく、あくまで一時的なものとの見方を維持しました。一方、雇用市場については強い改善が続くという見方に自信を強めており、2022年後半には最大雇用の達成も可能であるとの見方を示しました。

市場の反応

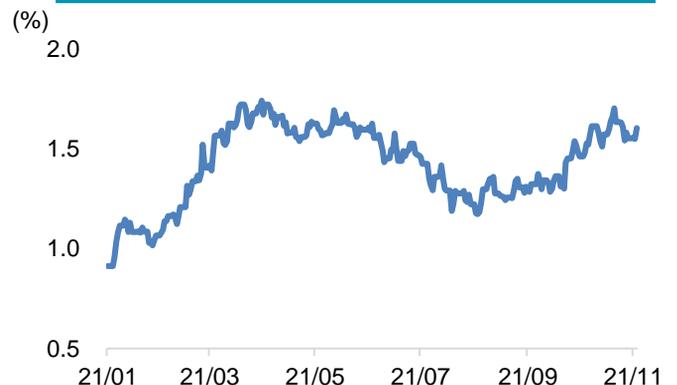
3日の米国株式市場では、FOMC公表内容が事前想定通りだったことや堅調な企業決算を材料に、NYダウは前日比104.95ドル高の36,157.58ドルとなり、2営業日連続で最高値を更新しました。

米国債券市場では、パウエルFRB議長が物価上昇率の加速を想定以上と認めたことや、2022年後半には最大雇用の達成も可能との見方を示したことを受けて、米国国債利回りは上昇しました。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



(期間)2021/1/1～2021/11/3、(出所)Bloomberg

評価及び今後の見通し

今回のFOMCでは、事前想定通りテーパリングが決定され、提示されたペースに基づけば来年半ばには新規資産購入が終了する予定となります。今後の減額ペースは声明文にもあった通り景気動向次第で変化する可能性があります。今回の決定を受けて市場の関心はテーパリング終了後に見込まれる利上げ時期に移っていくとみられます。パウエルFRB議長が今後、インフレは一過性であるとの認識の下、テーパリング終了と利上げ開始は無関係であることを強調することで、市場の利上げ期待の高まりをコントロールしつつ、景気に打撃を与えない範囲で金融政策を引き締める方向に緩やかに舵を切っていくと予想しています。

(ご参考)今後の主要イベント

	日本	米国	欧州
12月	16-17日:日銀政策決定会合	14-15日:FOMC	16日:ECB理事会